小　学　校

平成 30 年度

教育研究員研究報告書

音　楽

東京都教育委員会

目　　次

Ⅰ　研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

Ⅲ　研究仮説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅳ　研究方法
　1　基礎研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
　2　研究の進め方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅴ　研究構想図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

Ⅵ　研究内容
　1　四つの視点の設定と具体的方策について　・・・・・・・・・・・・・・・・　5
　2　協働の場面の設定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
　3　教師の働き掛け　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
　4　学びの基本　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
　5　検証・改善　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11

Ⅶ　実践事例
　1　第５学年の実践例
　　題材名「旋律の特徴を生かして、表現を工夫しよう」・・・・12
　2　第２学年の実践例
　　題材名「時計の音楽を楽しんできこう」・・・・・・・・・・・16
　3　第５学年の実践例
　　題材名「いろいろな声で音楽をつくろう」・・・・・・・・・・20

Ⅷ　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

研究主題
音や音楽と豊かに関わることができる児童の育成
～他者との協働を通して、思考力、判断力、表現力等を高めるための指導の工夫～

Ⅰ　研究主題設定の理由

平成 29 年３月に学習指導要領の改訂が公示された。平成 30 年度は、平成 32 年度全面実施に向けての移行期間であり、一部の教科等において先行実施が始まっている。

今回の学習指導要領改訂では、子供たちに「変化の激しい世の中で、一人一人が持続可能な社会の担い手」として「質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していく」ことが期待されている。そして、学校教育によって、子供たちがよりよい社会と幸福な人生の創り手となり、自ら未来を切り拓(ひら)いていけるような資質・能力を育成していくことが求められている。

これからの社会では、今まで以上に、学習したことを生きて働く力として活用していくとともに、未知の状況にも、学びを生かして対応する力が大切である。この資質・能力の育成は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善によって、より確実なものとなっていく。そして、急速に変化する時代にあっても、よりよい他者との関わりが、豊かな生き方を生み出す源となる。

小学校学習指導要領（平成 29 年３月）（以下、「学習指導要領」と表記。）では、他者と協働しながら「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の重要性が示されている。小学校学習指導要領解説音楽編（平成 29 年度告示）（以下、「学習指導要領音楽編」と表記。）には、「客観的な理由や根拠を基に友達と交流し、自分の考えをもち、音楽表現や鑑賞の学習を深めていく過程に音楽科の学習としての意味がある」とある。音楽科において音や音楽、言葉などによるコミュニケーションを図りながら、協働して物事に取り組み課題を解決していく中で身に付く力は、未来を拓く子供たちに最も必要な力の一つである。他者との協働を通して、音楽科のねらいに迫る資質･能力を育てていくことが、子供たちがこれからの世の中をより豊かに生きていくための大きな力の一つとなるに違いない。

一方、本年度研究員の日頃の授業実践における課題を集約し、分析したところ、グループ活動など協働の学習場面で課題が多いことが分かった。具体的には、①協働の場面における教師の関わり方が不十分である、②協働の場面が題材及び本時のねらい達成のための有効な手段となっていない、③グループ活動において児童の学習意欲を引き出すことが難しいことなどである。

そこで、本研究では、音楽科の目標である「音や音楽と豊かに関わることができる児童の育成」を主題に設定し、副主題を「他者との協働を通して、思考力、判断力、表現力等を高めるための指導の工夫」とした。

社会には、様々な音や音楽が存在する。それらの多種多様な音や音楽と豊かに関わること

で、私たちの生活もまた、一層豊かなものとなる。生活や社会の中にある音や音楽を聴き取り、感じ取ったことを支えとして、自分自身の音楽的感性を働かせる。そして、それを自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けて考えられたとき、音や音楽は私たちの生活に深く関わりのあるものとなる。そのためには、音楽科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方、すなわち音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動となるよう授業改善を進めることが重要である。学習指導要領音楽編には、「音楽的な見方・考え方」とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」と示されている。本研究の主題を実現するには、「音楽的な見方･考え方」を働かせることが必要不可欠であり、それこそが、音や音楽と豊かに関わっている姿を生み出す中核となる。その基盤となる資質･能力を育成するのが、音楽科の授業であると考える。

この研究を通し、他者との協働を通して音楽科の目標達成に迫ることで、社会を生き抜くたくましさと豊かな人間性の基盤を育てたいと考え、研究主題を設定した。

Ⅱ　研究の視点

研究を進めていく中で、音楽科の目標を達成するには、児童が音楽活動を「楽しむ」ことができるよう、その楽しさの質を高めていくことが大切であると考えるに至った。その際、他者との協働を通して目標の達成を目指すことが、音楽科の担う役割の一つである。音や音楽、言葉などを媒体として、学習課題に向かって協働して取り組み、学びを進める中で、児童は、満足感を伴った、より質の高い「楽しさ」を感じることができる。そして、今まで以上に音楽が好きになり、ますます自ら進んで意欲的に音楽活動に取り組むようになり、さらに学びを深めていくことができる。この活動が発展的に繰り返されることで、学びは深いものとなり、その結果、音や音楽と豊かに関わることができるようになる。そのためには、音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽を知覚･感受し、表現を工夫したり味わって聴いたりするなど、思考力、判断力、表現力等を高めていくことが重要であると考えた。

そこで、本研究では、他者との協働を「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、友達と音楽表現をしたり音楽を聴いたりすること」と捉え研究を進めることとした。他者と協働する中で、音楽表現を工夫することや音楽を味わって聴くことができるようにする力を育成するためには、指導計画の中で必然性のある協働の場面を設定し、人数や構成員など、活動に適した配置にするとともに、教師が意図的、計画的に適切な働きかけを行う等の授業改善が重要である。以上の理由から、研究主題に迫るためには、協働の場面の設定と教師の働き掛けを工夫する必要があると考えた。また、授業を支える土台として、より効果的な協働を行うための「学びの基本」についても研究することにした。これらの有効性について、検証し改善していくことが、研究を深めていく上で重要であることから、本研究の視点を、「協働の場面の設定」、「教師の働き掛け」、「学びの基本」、「検証・改善」とし、四つの視点に対する具体的な方策を研究することにした。

Ⅲ　研究仮説

本研究では、「音楽的な見方・考え方を働かせ、表現を工夫したり、味わって聴いたりする児童」の育成を目指している。教師が他者との協働の場面の設定と教師の働き掛けを工夫することで、児童は、思考力、判断力、表現力等を高めていくことができると考える。このことが、音や音楽と豊かに関わることのできる資質･能力の育成につながっていく。

そこで、本研究の研究仮説を以下のように設定した。

「他者との協働の場面を設定し、教師が働き掛けを工夫することで、児童は、音楽的な見方・考え方を働かせながら、表現を工夫したり、味わって聴いたりすることができるようになるであろう。」

Ⅳ　研究方法

１　基礎研究

次の文献等を基に、本研究の考え方や捉え方について整理した。

○　小学校学習指導要領解説総則編（平成29年７月）
○　小学校学習指導要領解説音楽編（平成29年７月）
○　平成24、25、26、27、28、29年度教育研究員研究報告書 小学校「音楽」（東京都教育委員会）
○　平成24・25年度小学校学習指導要領実施状況調査教科別分析と改善点（国立教育政策研究所教育課程研究センター　平成27年２月）
○　文部科学省委託事業「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善に関する実践研究」（埼玉県戸田市教育委員会　平成30年５月）

２　研究の進め方

最初に、研究部員の所属校や各地区の指導を振り返り、児童の実態と教師の課題を整理した。次に、本研究における目指す児童像を考え、研究主題を「音や音楽と豊かに関わることができる児童の育成～他者との協働を通して、思考力、判断力、表現力等を高めるための指導の工夫～」と設定した。研究主題に対する協議を進める中で、研究仮説をたて、視点を四つに整理した。これらを３回の授業①歌唱、②鑑賞、③音楽づくりにおいて検証し、協議する中で、研究を深めていった。

なお、研究を進めるに当たっては、参考文献などを追究したり、学習指導要領についての理解を深めたりするなど、基礎研究にも力を入れて取り組んだ。

Ⅴ　研究構想図

全体テーマ「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」

児童の実態（各学校の課題）

○他者と協働しながら、思いや意図をもって音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくことが難しい。
○主体的に音楽に関わろうとする態度に、個人差が見られる。
○聴き取ったことと感じ取ったことを音楽的根拠と関連付けて考えることが難しい。

教師の課題

○協働の場面設定が、題材及び本時のねらい達成のための有効な手段となっていない。
○協働の場面における教師の働き掛けが不十分であり、主体的な活動を生み出せていない。

目指す児童像

音楽的な見方・考え方を働かせ、表現を工夫したり、味わって聴いたりする児童

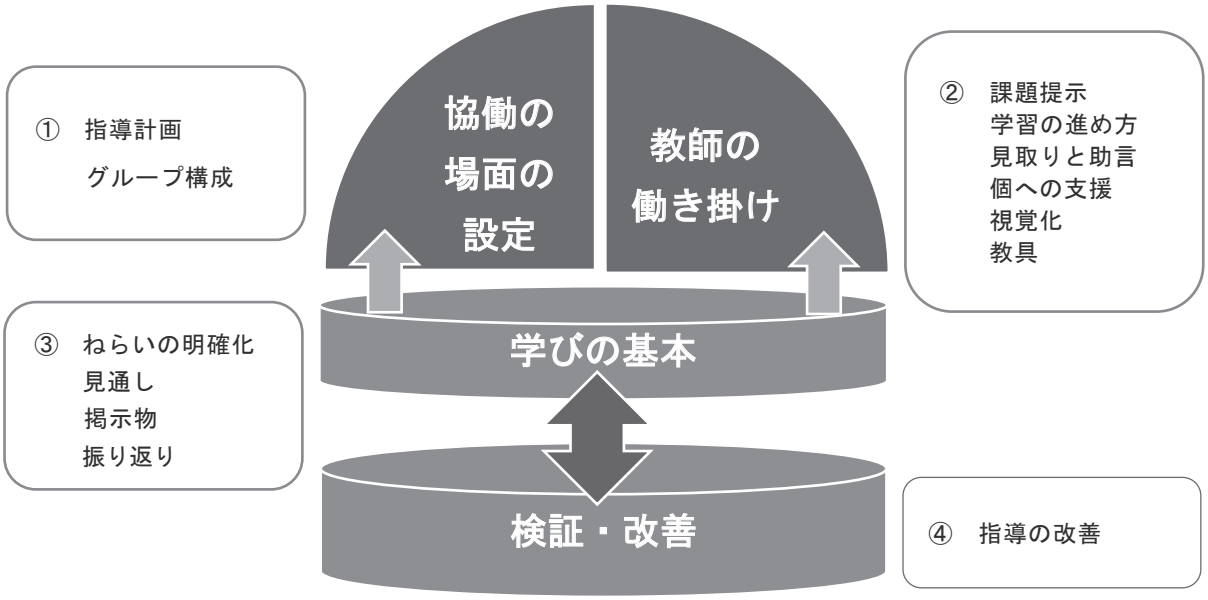
研究主題

音や音楽と豊かに関わることができる児童の育成
～他者との協働を通して、思考力、判断力、表現力等を高めるための指導の工夫～

研究の仮説

他者との協働の場面を設定し、教師が働き掛けを工夫することで、児童は、音楽的な見方・考え方を働かせながら、表現を工夫したり、味わって聴いたりすることができるようになるであろう。

●四つの視点の設定と具体的方策の整理



Ⅵ　研究内容

１　四つの視点の設定と具体的方策について

本研究の視点を、「協働の場面の設定」、「教師の働き掛け」、「学びの基本」、「検証・改善」とし、四つの視点に対する具体的な方策を研究する。

【表１「四つの視点と具体的方策の整理」】

方策	カテゴリ	具体的方策
協働の場面の設定	指導計画	題材を見通し、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、友達と音楽表現を工夫したり音楽を味わって聴いたりする場面を指導計画に位置付ける。
	グループ構成	課題に即した効果的なグループ構成をする。
教師の働きかけ	課題提示	主体的な学習活動となるように、課題提示の仕方、協働を行う直前の発問を工夫する。
	学習の進め方	課題解決に向けた協働での学習の進め方について、具体的に提示する。
	見取りと助言	見取りの視点を明確にして、学習状況を把握する。
		グループごとに、見取ったことに対しての助言（理由、復唱、肯定、価値付け、質問、提案）をする。
		グループの見取りを基に、全体での共有の場面で価値付けをする。
	個への支援	個に応じた支援をする。
	視覚化	音楽的な見方・考え方を働かせやすくしたり、友達と共有しやすくしたりするために、音楽活動を視覚化する。
	教具	音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを助ける教具を準備する。
学びの基本	ねらいの明確化	題材の指導計画を作成する際、【共通事項】を絞り、ねらいを明確にする。
	見通し	主体的に学習を進めることができるように、題材全体の流れ、１時間の学習の流れを児童に示す。
	掲示物	音楽的な見方・考え方を働かせながら、交流することができるように、【共通事項】や音楽の感じを表す言葉例等を掲示する。
	振り返り	児童が自身の学びや変容を自覚したり、次時への意欲を高めたりできるように、学習したことについて振り返りを行う。
検証・改善	指導の改善	児童の姿から視点に対する方策を振り返り、指導の改善を図る。

２　協働の場面の設定

「協働の場面の設定」のカテゴリを以下の二つに分類した。

(1)　指導計画

＜協働の具体的な場面例＞

○　気付いたことや感じ取ったことを交流する場面

○　思いや意図をもって音楽表現を工夫する場面

○　曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く場面

(2)　グループ構成

＜グループ構成を考える視点＞

○　表現の技能、音楽表現への発想力、鑑賞の能力

○　人間関係　　等

題材に必要な項目を選択し、総合的に考えていく。人間関係を考慮するため、学級担任と相談し決定した。

＜グループの構成人数の工夫＞

必要に応じて、学習活動の中でグループを更に分けたり、統合したりした。

○　曲の特徴にふさわしい表現を工夫する（グループ）

⇒　表現を振り返り話し合う（ペア → グループ）

最初の話合いをペアにすることで、全員が考えを話しやすくする。

○　即興的に表現する（個 → ペア→グループ）

徐々に人数を増やすことで、学習活動に取り組みやすくする。

３　教師の働き掛け

「教師の働き掛け」のカテゴリを以下の六つに分類した。

(1)　課題提示

＜課題提示の工夫例＞

○　グループごとに別の条件を提示する。

○　前時の音楽表現とは、異なる発想をもてるような課題を提示する。

＜協働を行う直前の発問例＞

確実にねらいに迫ることができるよう、教師が提示する課題は一つにした。

○「旋律の動きをグループで確認しながら、どのように強弱を生かすかを考えましょう。工夫した強弱で歌ったり、更に考えたりして、音楽表現を高めていきましょう。（強弱の工夫）」

○「時計は、最後にどうなったでしょうか？思い浮かべたことをグループで話し合いましょう。（思い浮かべたこと）」

(2)　学習の進め方

＜学習の進め方の提示例＞

○　表現する　⇔　思いや意図に合った表現であったか話し合う

○　想像したことを一人ずつ話す　⇒　その話題について話し合う

(3)　見取りと助言

＜見取り方と助言の視点＞

ねらいの達成に向けた活動になっているか、座席表やグループ表を活用しながら見取り、学習状況を把握した。児童に提示した活動時間内で見取り、助言を行った。支援や助言が必要と思われるグループから見取る等、意図的に見取る順番を決めることもあった。グループの見取りを基に、価値付けしたい児童の音楽表現や考えを、中間発表等学級全体で共有した。

＜助言例＞

事前に児童の反応を予想し、助言内容を準備した。

理由　「どうしてですか。」
「音楽のどこで、そう思ったのですか。」　等

感じ取ったことの理由を音楽から見付けることができるように発問することで、話合いの話題が焦点化され、深まっていくようにした。

復唱　C「○○を工夫しました。」
T「○○を工夫したのですね。」
肯定　「素敵な考えですね。」「いいですね。」
価値付け　「○○ということですね。」　等

児童が思いや考えに自信をもち、その後の話合いが活性化するようにした。また、グループの考えや工夫を他のグループの新たな聴き方や表現の工夫につなげていけるように、学級全体の共有の場面でも、価値付けを行った。

質問　「○○はどうするのですか。」「○○についてどう思いますか。」
提案　「○○もありますね。」　等

児童の思いや考えが更に広がるように、活動の様子に応じた質問、提案をし、新たな表現の工夫や聴き方につながっていくようにした。

(4)　個の支援

＜支援例＞

○　その児童に応じた目標や発問を設定し、行った。

○　児童の思考に沿って学習内容を振り返った。

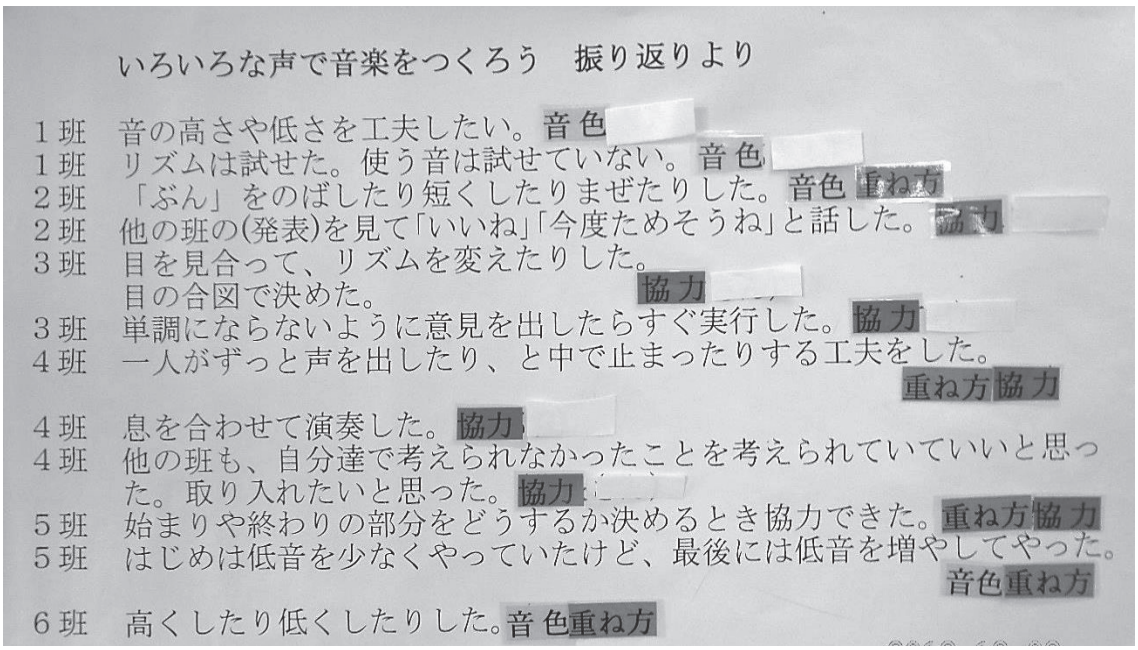
○　ねらいに向かって活動できているときや、意欲的に取り組む姿勢が見られるときは認め、自信をもたせるようにした。

(5)　視覚化

＜視覚化例＞

○　前時振り返りの掲示

前時振り返りの内容と共通事項等との関わりを示して共有し、本時のグループ学習に生かせるようにした。



【写真１　前時の振り返り】

○　体を動かす活動

聴き取った音や音楽に合わせて手や体を動かすことで、気付いたことや感じ取ったこと、聴き取ったことを友達と共有しやすくした。

○　板書

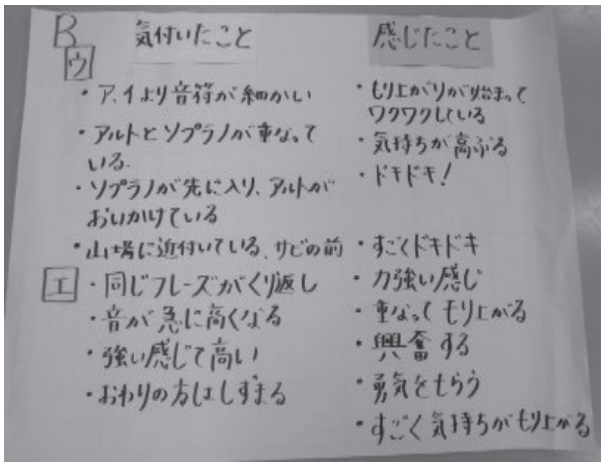
教師が、聴き取ったことや感じ取ったことを分けて確認しながら記述していくことで、児童が、音楽的な見方・考え方を働かせながら、それらの関わり合いに気付きやすくなるようにした。また、全体での共有にもつながるようにした。

○　掲示

気付いたこと、感じ取ったことを学級全体でまとめ、次時などに掲示することで、グループでの表現の工夫につながるようにした。

○　グループワークシート

音楽づくりにおいては、つくった音楽を図形譜などで視覚化し、グループ内で共有できるようにした。



【写真２　気付いたこと、感じ取ったこと】

(6)　教具

＜教具例＞

○　楽器マグネット

楽器マグネットを示すことで、児童は実物の楽器を手にしなくても、聴き取った音や音楽と、楽器を関連付けて捉えやすくし、言葉によるコミュニケーションの活性化につなげた。

○　カード

・　音楽づくりにおけるグループ活動では、音の重ね方の例をカードにして提示・共有した。

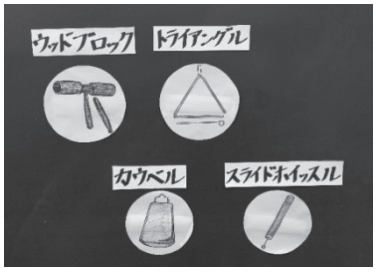
・　中間発表におけるグループ同士の交流、価値付け等の共有に有効となるよう、各グループの「感じを表す言葉」をカードにして提示した。

○　拡大楽譜

歌唱の授業では、グループでの表現工夫につなげるために、拡大楽譜を使用して楽曲の構造を共有した。

○　グループ楽譜

思いや意図、表現の工夫をグループ内で視覚的に共有できるようにした。



【写真３　楽器マグネット】

【写真４　音の重ね方例】

４　学びの基本

以下の内容を「学びの基本」として授業に組み込んでいくことが、他者との協働を通した学習の効果をより高めていくと考え、以下のように整理した。

(1)　ねらいの明確化

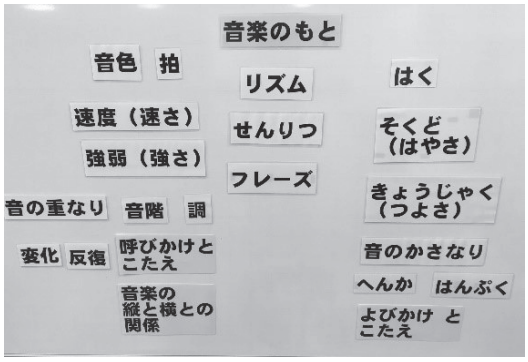
指導計画を作成する際に、【共通事項】を絞り、題材のねらいを明確にする。

(2)　見通し

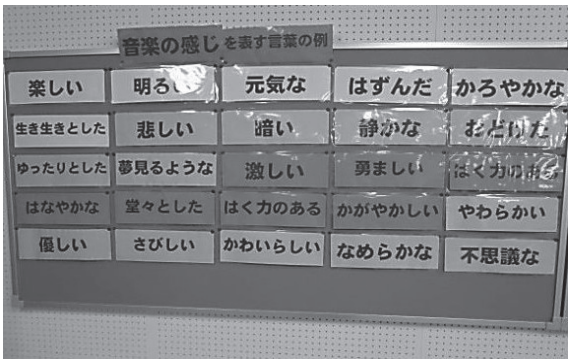
児童が主体的な学習をすることができるように、題材全体の学習の見通し、一時間の学習の見通しをもたせる。

(3)　掲示物

児童が音楽的な見方･考え方を働かせながら､交流することができるように､【共通事項】や音楽の感じを表す言葉例等を掲示する。



【写真５　掲示物の例①】



【写真６　掲示物の例②】

(4)　振り返り

児童に一時間の学習でできるようになったことや分かったこと等を振り返らせることで、学びの深まりを実感させ、次時への意欲を高める。また、教師が児童の実態を把握できるようにする。

なお、振り返りを効果的に行うため、その方法について、表２で整理をした。児童の実態に即した振り返り方法を検討し、検証授業で活用した。（図１、図２）

【表２　児童の振り返り方法】

（ア）記述		（イ）チェック	
①項目設定	②自由記述	①挙手による意思表示	②振り返りカード
（ウ）混合（記述、チェック）		（エ）その他	
①挙手及び発言	②振り返りカード	①少人数での話合い	②学習計画表への位置付け

学習計画表

5年　組　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

時間	学習の流れ	今日の学習をふりかえって	先生から
1	♪　「君をのせて」の楽曲全体の感じをとらえよう。 ○　範唱を聴いて曲の感じをつかみ、曲の好きな部分、気に入った部分を見付け、友達と意見交換する。 ○　ソプラノの旋律を歌う。	♪　「君をのせて」の　好きな所・気に入った所を友達と意見交換することができましたか？　（　　） ♪　ソプラノの旋律を気持ちをこめて歌うことができましたか？　（　　） 感想	
2	♪「君をのせて」の旋律の特徴を確認し、ソプラノのパートを歌おう。 ○Ａ（ア イ）Ｂ（ウ エ）Ａ（オ カ）それぞれの旋律について、気付いたことを友達と交流し、確認する。 ○「君をのせて」のアルトの旋律を歌う。 ○Ａ（ア イ）の部分の旋律の特徴を生かして歌う。	♪「君をのせて」の（ア イ）（ウ エ）（オ カ）の旋律の特徴に気付いて、友達と交流することができましたか？　（　　） ♪「君をのせて」のアルトの旋律を歌うことができましたか？　（　　） 感想	
3	♪「君をのせて」を二部合唱で歌おう。 ○ソプラノとアルトを合わせて、二部合唱する。	♪「君をのせて」を二部合唱で歌うことできましたか？　（　　） 感想	
4	♪Ｂ（ウ エ）の旋律の特徴を生かすための工夫をしよう。 ○ウの部分のかけ合いの部分を感じ取って歌う。 ○ウの部分の強弱を工夫しながら、グループで歌う。	♪「君をのせて」のＢ（ウ エ）の部分をグループの友達と工夫することができましたか？　（　　） 感想	
5	♪「君をのせて」のグループの発表を聴いて、友達の演奏のよさをみつけよう。 ○前の時間に学習したＢ（ウ エ）の部分のグループ発表を聴き合う。 ○Ａ（オ カ）の特徴を感じ取って歌う。 ○全体を通して、二部合唱する。	♪前の時間に学習したＢの部分の発表を聴いて、友達の表現のよさや工夫に気付くことができましたか？　（　　） ♪「君をのせて」の旋律の特徴を感じ取って、二部合唱することができましたか？ 感想	

【図１　振り返りの方法例　　表２－（エ）その他（学習計画表への位置付け）検証授業①より】

いろいろな声で音楽をつくろう　　振り返り

年　組　番　班
氏名

①　月　日（　）

	◎○△	具体的に
友達と協力して活動できましたか		
いろいろな方法で試そうとしてみましたか		
今日一番 よかったこと 楽しかったこと		

②　月　日（　）

	◎○△	具体的に
友達と協力して活動できましたか		
音の重ね方や音色についての発想が広がりましたか		
今日一番 よかったこと 楽しかったこと		

【図２　振り返りの方法例　表２－（ウ）混合（振り返りカードによるもの）検証授業③より】

５　検証・改善

教師が客観的に自身の授業について（他者との協働を通した学習）振り返り、児童の実態に即した的確な授業改善をすることができるように、「授業改善のためのチェックリスト」（表３）を作成し、活用した。

【表３　「授業改善のためのチェックリスト」～思考力、判断力、表現力等を高めるための協働の充実に向けて～】

児童は課題を理解し、主体的に活動していたか。	
教師の働きかけ	□ ねらいを達成するために、協働を行う直前の発問を工夫したか。
	□ 児童に学習の進め方や時間配分を伝えたか。
児童は課題解決に向けて、音や音楽、言葉によるコミュニケーションを図りながら活動していたか。	
協働の場面の設定	□ 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、友達と音楽表現をしたり音楽を味わって聴いたりする場面を指導計画に位置付けたか。
教師の働きかけ	□ 児童の実態を踏まえたグループ構成にしたか。
	□ 個に応じた支援をしたか。
	□ 音楽的な見方・考え方を働かせやすくしたり、友達と共有しやすくしたりするために、音楽を視覚化していたか。
	□ 音や音楽及びコミュニケーションを助ける教具を準備したか。
児童は協働を通して、音楽表現を工夫したり、味わって聴いたりしていたか。	
教師の働きかけ	□ 見取りの視点を明確にして、学習状況を把握したか。
	□ グループごとに、見取ったことに対しての助言をしたか。
	□ グループの見取りを基に、全体での共有の場面で価値付けをしたか。
本時のねらいを達成できたか。	
検証・改善	□ 協働の場面での児童の姿、演奏の内容等を記録し、児童の評価を行ったか。

Ⅶ　実践事例

１　第５学年　歌唱

(1)　題材名「旋律の特徴を生かして、表現を工夫しよう」

(2)　題材の目標

・　旋律の特徴を生かし、響きを感じ取って歌唱する。

・　旋律の特徴を感じ取り、思いや意図をもって表現を工夫する。

・　友達と協働して、声や響きを合わせて歌う活動に進んで取り組もうとする。

(3)　学習指導要領との関連

［Ａ表現・歌唱］（１）ア　イ　ウ(イ)

【共通事項】　ア　ｱ　旋律　強弱

(4)　題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①　「君をのせて」の歌詞の内容を理解し、楽曲全体の雰囲気をつかんで歌う学習に取り組もうとしている。	①　「君をのせて」の旋律の特徴に気付き、それぞれの特徴を感じ取っている。 ②　「君をのせて」のＢ（ウ エ）の部分の旋律の特徴を生かした表現の工夫をしている。	①　「君をのせて」の下声部の旋律の特徴を感じ取り、主旋律を生かして歌っている。 ②　「君をのせて」の旋律の特徴を生かし二部合唱している。

(5)　指導観

ア　題材観

本題材では、旋律の特徴を捉えながら、どのように歌うかについて、思いや意図をもち、友達と関わりながら、歌い方を工夫していく。児童が自分の考えや意見を伝え、友達の考えを聞く過程で、共有・共感したり、違う視点から考えを知ったりする。自分の考えを広げ、表現を工夫するアイディアを深める姿を育てたい。また、言語化して伝え合うだけでなく、歌うことを通して、表現の工夫について、根拠をもって意見交換したり、アドバイスしたりすることで、更に歌唱表現が高まると考えた。

イ　教材観

「君をのせて」（作詞：宮崎　駿　　作曲：久石　譲　　編曲：富澤　豊）

ホ短調、４分の４拍子二部合唱。Ａ（ア　イ）Ｂ（ウ　エ）Ａ（オ　カ）の三部形式であり、Ａ（ア　イ）の部分では、主和音から順次下降する和声進行が特徴的であり、Ｂ（ウ　エ）の曲の盛り上がりの部分が特徴的である。転調の効果と曲想の変化に注意しながら、声の出し方や強弱の表現の工夫をすることが効果的であると考えた。

(6)　研究主題に迫るための手だて

ア　協働の場面の設定

(ｱ)　指導計画

児童が主体的に学習し、自分の考えを更に広げ深められるようにするために、ペアやグループなど、他者との協働の場面を設ける。児童が音楽的な見方、考え方を働かせながら、友達に考えを伝えたり、表現を工夫したりすることができるような指導計画を作成する。

(ｲ)　グループ構成

児童の実態を把握し、音楽表現への技能や人間関係等を考慮し、教師がグループを編成する。その際、担任に相談し、グループ編成に生かす。

児童が友達と歌い方を試しながら、歌唱することができるように、６～７人のグループとし、強弱の効果や響きを実感しやすくなるようなグループ構成にする。

イ　教師の働き掛け

(ｱ)　学習の進め方

協働を行う場面において、グループでの学習の進め方を具体的に提示する。旋律の特徴を生かして、強弱を工夫し、友達と歌唱した際に、旋律の特徴や歌詞の内容と強弱が合っていたか、強弱の効果等を話し合って、繰り返し表現を試すことができるように提示する。

児童が旋律の特徴を手掛かりにしながら、強弱の効果について実感することができるように、グループ内で聴き役をつくり、客観的に表現を振り返るように、板書や指示で伝える。協働を行う前にグループでの学習の時間を提示する。

(ｲ)　見取りと助言

グループ活動が活発になるように、教師が各グループを見取り、肯定的な言葉掛けをし、表現の工夫を認める。児童が表現を工夫した根拠を尋ねたり、児童の発言に対して補助発問をしたりして、考えを導き出せるように助言する。各グループでの見取りを基に、中間発表で全体に共有するグループを確認する。

(ｳ)　個への支援

活動へ主体的に参加することが難しい児童に対し、友達の考えに共感することで、自分の考えに生かすことができるように助言する。目標に向かい努力する活動の様子を肯定的に認める。

(ｴ)　視覚化

旋律の特徴について、気付いたことや感じ取ったこと等をまとめた内容を掲示し、本時に生かすことができるようにする。

グループ活動用の楽譜を活用させることで、児童が音楽的な見方・考え方を働かせながら、旋律の特徴と強弱の工夫を共有することができるようにする。

(7) 題材の指導計画（全５時間扱い）

時	○学習内容　　・学習活動	◆教師の働き掛け　　◇評価規準【評価方法】
第1時	・　学習の見通しをもち、学習の予定を把握する。 ○　「君をのせて」の歌詞の内容を理解し、楽曲全体の感じをつかむ。 ＜児童の学習カードから＞ ・　自分はイの部分が好きだったが、友達はウの部分が好きだと知った。友達の理由は、「盛り上がるから」と言っていたので、なるほどと思った。 ・　範唱を聴いて曲の感じをつかむ。 ・　歌詞を朗読する。 ・　範唱を聴いて、曲の好きな部分、気に入った部分を見付け、学習カードに記入する。 ・　曲の好きな部分や気に入った部分を友達に伝え、友達の思いを知る。 ・　上声部（ソプラノ）を歌唱する。	◆　児童に学習計画を示し、学習の見通しをもたせるようにする。 ◆　範唱を聴かせ、児童が歌詞や旋律の好きな所の理由を友達に伝えることができるように楽譜に記入したり、思いを知って自分の考えや思いを生かしたりできるように促す。 ◆　児童が曲の好きな所やその理由を友達に伝えることができるように助言し、友達の考えや思いを知ることができるように、発問する。 ◆　友達の曲の好きな所について、自分の楽譜に記入したり、友達の思いを知ることで、自分の思いや考えに生かしたりできるように促す。 ◇　「君をのせて」の歌詞の内容を理解し、楽曲全体の雰囲気をつかんで歌う学習に取り組もうとしている。 【関①　行動観察、発言内容、記述内容】
第2時	○　「君をのせて」の楽曲の構成に気付き、それぞれの部分の特徴をつかむ。 ・　A（ア　イ）B（ウ　エ）A（オ　カ）それぞれの旋律を聴き、旋律の特徴について、気付いたことと感じたことを学習カードに記述する。 ・　友達と意見交換し、友達との感じ方の共通点、違いを見付け自分の考えを広げる。 ＜児童の発言から＞ ・　気付いたことは同じであったけれど、感じたことが違っていた。 ・　アの旋律の特徴について、自分がリズムに注目できていなかったので、気付くことができた。 ○　「君をのせて」のそれぞれの旋律を捉える。 ・　ソプラノ（上声部）の旋律を歌唱する。	◆　教師が旋律を弾き、旋律の感じをつかませ、旋律の特徴について気付いたこと感じたことを記入させる。 ◆　自分が気付いたことや感じたことと関連させながら交流するように助言する。 ＜交流前の発問＞ 「旋律について、気付いたことと感じたことを友達に伝えましょう。その際、自分の感じ方が似ていたり、違っていたりしたら、メモをしておきましょう。」 ◆　学級を半分に分け、フレーズや歌詞のつながりについて聴き合うよう助言する。 ◇　「君をのせて」の旋律の特徴に気付き、それぞれの特徴を感じ取っている。 【創①　行動観察、発言内容、記述内容】

時	○学習内容　　・学習活動	◆教師の働き掛け　◇評価規準【評価方法】
第3時	○　「君をのせて」の旋律を捉える。 ・　フレーズや言葉のまとまりを感じ取って歌唱する。 ・　アルト（下声部）の旋律を歌唱する。 ○　「君をのせて」を二部合唱する。 ・　第２時で学習した旋律の特徴を生かしながら二部合唱する。	◆　アルト（下声部）の旋律を歌唱し、フレーズのまとまりを感じ取ることができるように手で旋律線を表しながら歌うように促す。 ◆　学級を半分に分け、音程やリズム、フレーズのまとまり等について聴き合うよう助言する。 ◆　聴き合う際には、視点を絞って聴かせる。（音程、フレーズ、歌詞など） ◆　主旋律の特徴を生かしながら歌うようにし、発音やフレーズのまとまりを感じ取りながら歌うようにする。 ◇　「君をのせて」の下声部の旋律の特徴を感じ取り、主旋律を生かして歌っている。 【技①　演奏聴取、発言内容】
第4時	○　Ｂ（ウ エ）の旋律の特徴を確認する。 ・　様子を想像しながら、一番を通して歌唱する。 ・　ウの部分のかけ合いの部分を感じ取って歌う。（パートごと） ・　ウの部分の表現を工夫しながら、グループで歌う。 ＜児童の発言から＞ ・　音がだんだん高くなると、気持ちも盛り上がるから、この歌詞から強くしていこう。 ・　ソプラノをおいかけるように歌うから、始めは弱くして歌おう。 ・グループでの練習について振り返る。	◆　児童が第２時に気付いたことの掲示を用いながら、様子や感じたことを生かして歌うように助言する。 ◆　自分の旋律を手拍子して歌唱し、かけ合いを感じ取るように工夫する。 ◆　「強弱」を工夫することに視点を絞って練習するように助言する。 ◆　グループで見通しをもって活動できるように、活動時間を掲示する。 ◆　歌う→振り返り（強弱の効果）をさせて表現を何度も試すように促す。 ◇　「君をのせて」のＢ（ウ エ）の部分の旋律の特徴を生かした表現の工夫をしている。 【創②　演奏聴取、発言内容】
第5時	○　「君をのせて」のグループの発表を聴き合う。 ・　前時に学習したＢ（ウ　エ）の部分のグループ発表を聴き合う。 ○　全体を通して歌唱する。 ＜児童の学習カードから＞ ・　強弱の工夫は、グループによって似ていたり、違ったりしていた。理由を聞いてみて納得することができた。 ・　自分たちと考えや歌い方が似ていた。	◆　前時に工夫した表現を聴き合い、感じたことをグループ間で交流させる。 ◆　全体を通して歌う際に、自分の表現に生かすことができることを記述させる。 ◆　主旋律を生かして、パートの音量のバランスを聴き合いながら歌うように助言する。 ◇　「君をのせて」の旋律の特徴を生かし二部合唱している。 【技②　演奏聴取・発言内容】

２　第２学年　鑑賞

(1)　題材名「時計の音楽を楽しんできこう」

(2)　題材の目標

・　曲想と音色、リズムとの関わりに気付く。

・　曲の楽しさを見いだしながら時計を表す音楽を味わって聴く。

・　友達と体の動きを見合ったり、話し合ったりしながら曲の楽しさを見付けていく学習を通して、時計を表す音楽に親しみ、楽しんで音楽活動に取り組もうとする。

(3)　学習指導要領との関連

［B　鑑賞］　(1) アイ

【共通事項】 ア　ｱ　音色、リズム

(4)　題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①　時計を表す打楽器の音色やリズムを感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。	①　打楽器の音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、時計の様子を想像しながら聴いている。 ②　時計の様子と打楽器の音色やリズムとの関わり合いから感じ取った楽しさを言葉で表し、曲全体を味わって聴いている。

(5)　指導観

ア　題材観

時計の様子を表すウッドブロックやトライアングルの音色、リズムの関わり合いに注目し、聴き取ったことを体の動きで表し友達と見合ったり、音楽的な見方・考え方を働かせて、感じ取ったことやそのように感じた理由を話し合ったりする中で、曲の楽しさを新たに見いだし、味わって聴くことができるようにする。

イ　教材観

「ゆかいな時計」(作曲：ルロイ・アンダソン)

４／４拍子、Ａ－Ｂ－Ａの複合三部形式。一定のリズムを刻むはずの時計が時折不規則に時を刻む様子を表現した描写音楽である。ウッドブロックやトライアングルという児童にとって身近な打楽器で時計の音を表していることから、音色やリズムを感じ取りやすく親しみやすい。Ａ－Ｂ－Ａの楽曲の構造が分かりやすく、低学年の児童が様子を思い浮かべながら想像豊かに聴く教材として適している。

(6)　研究主題に迫るための手だて

ア　協働の場面の設定

(ｱ)　指導計画

題材の学習の流れを①音楽を形づくっている要素を聴き取ったり、曲想を感じ取ったり、その関わり合いに気付いたりする学習段階、②曲の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴く学習段階とする。

①の学習段階では、聴き取ったことを体の動きで表し、友達と見合うことで共有したり、グループや全体で聴き取ったことや感じ取ったこと、その関わり合いについて言葉で交流したりする場面を設定する。②の学習段階では、見いだした曲の楽しさをグルー

プ内で発表し、共感し合う場面を設定する。

各学習段階において協働を取り入れることで､児童が音楽的な見方･考え方を働かせ、音楽の聴き方が広がったり、深まったりして、楽曲をより味わって聴くことにつながっていくと考える。

(ｲ) グループ構成

「聴き取ったこと」を体の動きで表し互いに見合ったり､「感じ取ったこと」を言語化しグループで交流をしたりする学習活動では、互いの動きが見やすく、話合いも活発になる３～４人のグループ活動を取り入れる｡グループの構成は学級担任と相談しながら、鑑賞の能力、人間関係等を考慮して決定した。

イ 教師の働き掛け

(ｱ) 学習の進め方

「感じ取ったこと」を言葉で表す場面では、グループ全員が話す機会をもてるよう、順番に自分の考えを話してから、グループ全員で話し合うようにする。

(ｲ) 見取りと助言

グループでの話合いの際、時計の様子を想像できているグループには、ねらいに沿った聴き方ができていることを価値付け、聴き取ったことと感じ取ったことの関わり合いに気付かせるような補助発問を行う。話合いが停滞しているグループには、体の動きを思い出させたり、音色やリズムの変化と時計の様子が結び付けたりするような補助発問をする。全体では、聴き取ったことを共有したり、感じ取ったことに共感したりしながら､その関わり合いに気付き､新たな聴き方の手掛かりを得ることができるようにする。

(ｳ) 個への支援

感じ取ったことを発信することが困難な児童については、友達の話を聞いたり、聞いたことに対する感想を発表したりすることで、次に聴くときの手掛かりが得られればよいと助言する。ワークシートへの記述が難しい児童については、今までの学習を振り返り、教師と話しながら考えをまとめ、文章化できるよう支援する。

(ｴ) 視覚化

ウッドブロックやトライアングルの音色及びリズムを聴き取る活動では、音に合わせて手や指を動かしながら、グループで見合って聴くようにする。友達の動きを見ながら聴くようにすることにより、聴き取らせたい音に注目しやすくなったり、リズムの変化を共有しやすくなったりする。

「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」を分けて板書することにより、その関わり合いに気付きやすくしていく。

(ｵ) 教具

「楽器マグネット」を活用することで、聴き取った音と楽器を関連付けて捉えやすくし、グループでの話合いが活発になるようにする。

(7)　題材の指導計画(全３時間扱い)

時	○学習内容　　・学習活動	◆教師の働き掛け　◇評価規準【評価方法】
第1時	○　「ゆかいな時計」の時計の音を表すウッドブロックの音色やリズムに興味をもって「はじめ」を聴く。 ・　全曲通して聴き、「気付いたこと」「感じ取ったこと」を発表する。 ・　題材の見通しをもち、本時の目標を知る。 ・　「はじめ」の部分をウッドブロックのリズムに合わせて指を動かしながら聴き、時計の秒針を表す音やリズムの変化を聴き取り発表する。 ・　ウッドブロックの音色とリズムを手掛かりにして、時計の様子を思い浮かべながら聴き、思い浮かべたことをグループで話し合ったり、発表したりする。 ＜話合いの仕方＞ ①　一人ずつ順番に話す。 ②　グループで話し合う。(感想、質問) ・　ウッドブロックの音色とリズムを手掛かりにして、時計の様子を思い浮かべながら「はじめ」を聴く。 ・　音楽を聴いて楽しかったことや面白かったことを発表する。 ・　本時の振り返りをする。	◆題材を通して、楽曲の楽しさを見付けていくことを確認する。 ◆　ウッドブロックのリズムに合わせて指を動かし、聴き取ったことを視覚化する。はじめは個で指を動かしながら聴き、秒針を表す音を集中して聴くようにする。次にグループで動きも見合うことで、秒針の音やリズムの変化を共有しやすくする。 ◆　聴き取ったことを全体で共有し、新たな聴き方の手掛りを得ることができるようにする。 ◆　聴き取ったことと感じ取ったことを分けて表に表すことで、これらの関わり合いに気付きやすくする。 ◆　様子を思い浮かべることができているグループには「音楽のどこでそう思ったのですか。」と補助発問をする。話合いが停滞しているグループには、「秒針のリズムが変わってしまった時計はどんな時計だと思いますか。」と補助発問をする。 ◆　全体で、感じ取ったこと、聴き取ったことと感じ取ったことの関わり合いを共有し、新たな聴き方の手掛りを得ることができるようにする。 ◇　時計を表す打楽器の音色やリズムを感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 【関①　表情観察、体の動きの観察、発言内容】 ◆　「時計の音を聴くことができましたか。」、「友達と動きを見合ったり、話し合ったりしたときに、『同じだ』や『なるほど』や『そうなんだ』と思ったところがありましたか。」について二択（はい、いいえ）挙手方式で振り返りを行わせる。
第2時	○　時計の音を表すトライアングルの音色に気を付けて「なか」を聴く。 ・　前時の学習を思い出し、本時の目標を知る。 ・　「なか」の部分をトライアングルの音色に合わせて手を動かしながら聴き、ベルを表す音を聴き取る。 ・　トライアングルの音色を手掛かりにして、時計の様子を思い浮かべながら聴き、思い浮かべたことをグループで話し合ったり、発表したりする。 T　チリリリーンと聞こえましたね。時計はどんな様子なのでしょう。 C　目覚しのベルが鳴っていると思います。 T　どうしてそう思ったのですか。＜理由＞ C　音が目覚し時計のベルに似ていたからです。 T　「音色」が目覚し時計のベルの音に似ていたのですね。 ＜復唱＞　＜価値付け＞ ・　「はじめ」と「なか」で時計を表していた楽器や奏法を予想し、試してみる。	◆　トライアングルの音色に合わせて手を振り、聴き取ったことを視覚化する。はじめは個で指を動かしながら聴き、ベルを表す音を集中して聴くようにする。次にグループで動きを見合うことで、ベルの音を共有しやすくする。 ・ベルの音を聴き取れず手が動かなかった児童も、友達の動きを手掛かりにして、ベルの音に気を付けて聴くことができるようになった。 ・ベルの音ではなく、秒針のリズムに合わせて指を動かす児童の聴き方を取り上げ、ウッドブロックの音も聴こえていることを共有した。学級全体の聴き方の広がりにつながった。　＜視覚化＞ ◆　様子を思い浮かべることができているグループには「音楽のどこでそう思ったのですか。」と補助発問する。話合いが停滞しているグループには、「このような音がする時計を見たことはないですか。」と補助発問をする。 ◆　全体で、感じ取ったこと、聴き取ったことと感じ取ったことの関わり合いを共有し、新たな聴き方の手掛りを得ることができるようにする。 ◇　打楽器の音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、時計の様子を表していることを感じ取って聴いている。 【鑑①　発言内容、体の動きの観察】

時	○学習内容　　・学習活動	◆教師の働き掛け　◇評価規準【評価方法】
第2時	○　打楽器の音色やリズムに気を付けて「はじめ」「なか」を聴く。 ・　ウッドブロックのリズムやトライアングルの音に合わせて楽器を演奏する真似をしながら「はじめ」「なか」を通して聴く。 ・　音楽を聴いて楽しかったことや面白かったことを発表する。 ・　本時の振り返りをする。	◆　「時計の音を聴くことができましたか。」「友達と動きを見合ったり、話し合ったりしたときに、『同じだ』や『なるほど』や『そうなんだ』と思ったところがありましたか。」について二択（はい、いいえ）挙手方式で振り返りを行う。
第3時	○　打楽器の音色やリズムに気を付けて「おわり」を聴く。 ・　前時の学習を思い出し、本時の目標を知る。 ・　「おわり」の部分をウットブロックのリズムに合わせて演奏する真似をしながら聴き、音色やリズムの変化を聴き取り、聴き取ったことを発表する。 ・　打楽器の音色とリズムを手掛かりにして、時計の様子を思い浮かべながら聴く。 ・　思い浮かべたことをグループで話し合ったり、発表したりする。 T　時計はどうなってしまったのでしょうか。 C　歯車が空回りして、おかしくなりました。 T　音楽のどこでそう思ったのですか。 ＜理由＞ C　最後のリズムのところです。 T　「リズム」ですね。　＜復唱＞ C　「リズム」が変わったから、「壊れた感じ」がしたのだと思います。 ○　時計の様子を思い浮かべながら、曲全体の楽しさを感じ取って聴く。 ・　打楽器の音色やリズムに気を付け、時計の様子を思い浮かべながら、全体を通して聴く。 ・　曲の楽しさをワークシートに記述し、グループ内で発表し合ったり、全体に発表したりする。 ＜児童のワークシートから＞ ・　最後のキュッという音が、鳩時計の鳩が出てきたのかなと思って、とてもわくわくしました。 ・　リズムが変わって、時計が壊れてしまったところがおもしろかったです。 ・　最後のココカッコッ‥のところが好きです。時計が楽しく遊んでいるのかなと思いました。 ・　本時の振り返りをする。	◆　ウッドブロックのリズムに合わせて指を動かし、聴き取ったことを視覚化する。はじめは個で指を動かしながら聴き、時計の秒針を表す音を集中して聴くようにする。次にグループで動きも見合うことで、リズムの変化を共有しやすくしたり、音色の変化に気付きやすくしたりする。 ◆　聴き取ったことを全体で共有し、新たな聴き方の手掛りを得ることができるようにする。 ◆　時計の様子が思い浮かばない児童がいた場合は、友達の話からヒントをもらうよう助言する。 ◆　聴き取ったことと感じ取ったことを分けて表に表すことで、これらの関わり合いに気付きやすくする。 ◆　様子を思い浮かべることができているグループには「音楽のどこでそう思ったのですか。」と補助発問する。話合いが停滞しているグループには、「秒針の音やリズムが変わった時計はどんな時計だと思いますか。」と補助発問をする。 ◆　全体で、感じ取ったこと、聴き取ったことと感じ取ったことの関わり合いを共有し、新たな聴き方の手掛かりを得ることができるようにする。 ◆　ワークシートへの記述が難しい児童については、教師と話しながら考えをまとめられるようにする。 ◆　曲の楽しさについて話したり聞いたりすることで、友達の感じ方に共感したり、自分の聴き方、感じ方を深めたりできるようにする。 ◇　時計の様子と打楽器の音色やリズムとの関わり合いから感じ取った楽しさを言葉で表し、曲全体を味わって聴いている。 【鑑②　発言内容、ワークシートの記述】 ◆　「『ゆかいなとけい』の楽しいところを見つけられましたか。」、「友達と動きを見合ったり、話し合ったりしたときに、『同じだ』や『なるほど』や『そうなんだ』と思ったところがありましたか。」について二択（はい、いいえ）挙手方式で振り返りを行う。

３　第５学年　音楽づくり

(1)　題材名　いろいろな声で音楽をつくろう

(2)　題材の目標

・　声による音色や重ね方の発想を生かして即興的に音楽をつくる。

・　声を用いて即興的に音楽をつくる活動を通して、音の重ね方や音色に関する様々な発想をもつ。

・　友達と協働して音楽をつくる活動に、進んで取り組もうとする。

(3)　学習指導要領との関連

［A　表現・音楽づくり］　(3) ア(ｱ)　イ(ｱ)　ウ(ｱ)

【共通事項】 ア　ｱ　音色　音の重なり　ｲ　反復

(4)　題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①　声を用いて音楽をつくる活動に関心をもち、進んで学習に取り組もうとしている。	①　声で音楽をつくる学習に、様々な発想をもって取り組んでいる。	①　互いの音を聴きながら、発想を生かして声を出したり音を重ねたりし、即興的に音楽をつくっている。

(5)　指導観

ア　題材観

本題材は、児童にとって初めての経験となる声による音楽づくりを行う。音楽づくりの中でも、特に、即興的に表現する資質･能力を育てるために設定した。人間の声は様々な声色を表現できることを再認識し、様々な発想で即興的に音を発していく。明確な音程や拍感に捉われない音楽は、児童にとっては馴染みの薄い表現であることが予想される。一音一音を大切に、真剣に取り組むことで、新たな世界観や価値観を見いだして欲しいと考える。

イ　教材観

(ｱ)　声を使った音楽づくり

教科書教材(教育出版社　音楽のおくりもの５年「いろいろな声で音楽をつくろう」)を基に、独自の方法を加え、声を使った音楽づくりを行う。教師が用意した、感じを表す言葉を手がかりに､グループで選んだ擬音語･擬態語など一種類を使用して音楽をつくる。重ね方や音色を工夫し、即興的に音を発することで生まれる無拍節･無音階の世界を楽しませたい。また、導入時には、教科書の作品例を紹介し、作品に対するイメージをもてるようにしたい。

(6)　研究主題に迫るための手だて

ア　協働の場面の設定

(ｱ)　指導計画

各時間の始まりに、個からペア活動、そしてグループでの活動へと人数を増やして活動する場を設ける｡このような段階を経ることで､本時のねらいに迫るグループ活動で、誰もが声を発し、活動に参加しやすいようにする。

活動の中で音のみによるコミュニケーションの場を設けることで、全員が、自分なりの発想をもって、即興的な表現に参加できるようにする。また、工夫が見られるグルー

プを全体に紹介し、価値付けすることで、友達の表現が、新たな発想を生む手がかりとなるようにする。

(ｲ)　グループ構成

音楽表現への発想力や技能、人間関係などを考慮し、教師がグループを編成する。その際、担任からも情報を得て、編成に生かす。また、活動内容に応じて人数を工夫する。

イ　教師の働き掛け

(ｱ)　課題提示

音楽づくりに当たり、活動の条件を明確にし、伝える。また、児童の意欲をかき立てる課題の設定や提示の仕方となるよう工夫する。

(ｲ)　見取りと助言

グループ活動中の指導を積極的に行い、座席表を用いて見取りを書き留める。全体で共有する際に、それらの内容も加味しつつ価値付けをしていく。同時に、グループに応じた助言を行い、発想が広がっていくようにする。

(ｳ)　個への支援

活動に主体的に参加することが難しい児童に対し、自信をもって活動できるように助言を行う。

(ｴ)　視覚化

前時の振り返りから、一部を抜粋し、掲示する。その際、共通事項との関わりを明確にし、本時の活動に生かせるようにする。

(ｵ)　教具

カード（例：音の重なりを視覚化したカード）などを作成し、掲示する。

(7)　題材の指導計画(全３時間扱い)

時	○学習内容　・学習活動	◆教師の働き掛け　◇評価規準【評価方法】
第1時	・　題材に対する見通しをもつ。 ○　協働して声を重ねて音楽をつくる活動に関心をもつ。 ・　条件に合わせて、一人一人が即興的に音を発する。 ・　４～５人のグループで、感じを表す言葉を手掛かりに、声による音楽をつくる。 ・　つくった音楽を発表し、よさや面白さを共有する。 ＜児童の発言から＞ ・　○班は音を切っていたから、弾む感じが出ていました。 ・　○班は前の人が演奏を止めたら次の人が始めていたので、工夫しているなと思いました。	◆　一人一人が即興的に行うことを伝える。 ◆　活動の条件を示す。 ◆　活動の条件に沿って、目で合図したり音の調子を変えたりしながら、自由に発想し、音を発するよう指示を出す。 ◆　音を出すたびに、毎回違ってもよいことを指示する。 ◆　音を出す時間と、話し合う時間とを分ける。 ◆　語（音）は自分たちで決めるようにする。例を掲示し、そこから選んでもよいことを伝える。 ◆　机間指導をし、価値付けを行う。 ＜行った価値付けの例＞ ・　○○さんの声から、この班が表したい感じが伝わってきますね。工夫していますね。 ・　この班は(掲示物の)○番のパターンを使ってみたのですね。

時	○学習内容　・学習活動	◆教師の働き掛け　◇評価規準【評価方法】
第1時	・　つくった音楽を書き留める。 ・　振り返りをする。 ＜児童の振り返りから＞ ・　いろいろな重ね方を試したので楽しかったです。 ・　○○さんがアドバイスしてくれて、うまく重ねることができました。	◆　自分たちが分かるように図式化するなどして書き留めるよう指示する。 ◆　大まかな全体像をワークシートに書きとめ、次回、演奏が変化してよいことを伝える。 ◇　声を用いて音楽をつくる活動に関心をもち、進んで学習に取り組んでいる。 【関①　行動観察　演奏聴取　発言】
第2時	○　表したい感情の音楽となるよう、音色と音の重ね方について様々な発想をもつ。 ・　個やペアで条件に合わせて即興的に音を発する。 ・　前時の学習を思い出しながら音を発する。 ・　本時の目標を知る。 ・　音楽づくりの条件を知る。 ＜課題提示と見通し　掲示と説明＞ ・　掲示 音の重ね方と音色とを変化させて「感じ」を表す音楽をつくろう ・　関連する【共通事項】と活動内容の明確化 ・　グループ毎の条件(つくる音楽の「感じ」を、グループ毎に手渡し ・　グループで即興的に音楽をつくる。 ＜協働中の児童の様子＞ ・　かわいらしくしたいから高い声を使おう。 ・　最後に１、２、３と(心の中で数えて)声を合わせて「ぶん」といおう。 ・　この前の○班の案を取り入れよう。 ・　(言葉によるコミュニケーションはほとんどなく、声のみで対話)。 ・　つくった音楽を書き留める。 ・　発表する。 ・　次時の学習への見通しをもつ。 ・　本時の振り返りをする。	◆　学習に向かう雰囲気づくりをする。 ◆　ワークシートを基に、前回つくった音楽を思いだせるようにする。 ◆　前回と多少異なってもよいことを伝える。 ◆　いくつかのグループに発表してもらう。 ◆　前回とは逆の意味の言葉を指定し、それを手がかりに即興的に音楽をつくることを伝える。 ◆　語(音)は前回と変えず、音色や重ね方を変化させて表現することを知らせる。 ◆　様々な発想を生かして、即興的に音楽をつくっていけるよう声を掛ける。 ◆　話合う時間と音を出す時間を設定する。 ◆　グループを回り、価値付けや個別指導を行う。 ◆　様子を見て、全体で共有したい内容があれば、途中で紹介する。 ◆　つくってから書き留めるようにする。 ◆　互いのよさを見つけながら聴くように声を掛ける。 ＜児童の発言から＞ ・　一人が指揮者の役割をしていたのが良かったです。 ・　アドリブの場所があったのがおもしろかったです。 ◆　次回は、前回つくったものと今回作ったものをつなげて演奏することを伝える。 ◆　振り返りシート(混合)を用意し、一人一人に本時のまとめをさせる。 ◇　声で音楽をつくる学習に、様々な発想をもって取り組んでいる。 【創①　行動観察　演奏聴取　ワークシート　発言】

時	○学習内容　・学習活動	◆教師の働き掛け　◇評価規準【評価方法】
第3時	○　音の重ね方や音色（声の表情）を考えながら、即興的に音楽をつくる。 ・　個やペアで条件に合わせて即興的に音を発する。 ・　前時の学習を思い出し、本時の目標を知る。 ・　グループごとに２種類の表情の異なる音楽をつなぎ合わせて音楽をつくる。 ・　つくった音楽を発表し合い、互いの良さを共有する。 ＜児童の発言から＞ ・　音色が変わったから二つの「感じ」の違いが伝わってきました。 ・学習の振り返りをする。 ＜児童の振り返りから＞ ・　友達と音楽をつくって発表できたのが楽しかったです。 ・　声が変わったのが面白かったです。 ・　動きを入れることで（表現している）声の質を高めることができてよかったです。	◆　前回までのワークシートを基に学習を進める。 ◆　演奏は、毎回異なってもよいことを伝える。 ◆　発表や発言に対し、教師が価値付けをする。 ＜行った価値付けの例＞ ・　前半と後半で重ね方が変わっていたことで、変化が生まれていましたね。 ・　○○君の低い声が全体を支えていました。 ・　前半は高い声が多く後半は低い声が多いことで、感じの違いが表現されていまし ◇　互いの音を聴きながら、発想を生かして音を重ね、即興的に音楽をつくっている。 【技①　演奏聴取　ワークシート】

※　「表現の工夫」について

本題材における「表現の工夫」（研究仮説）とは、児童が、音楽的な見方・考え方を働かせ、豊かな発想をもって音楽づくりに取り組む姿を指すものと捉え、研究を進めた。

Ⅷ　成果と課題

１　成果

平成 32 年度より全面実施される学習指導要領を踏まえた上で、協働に焦点を当てた研究主題を設定し授業を通して検証した。以下、検証内容等に沿って成果を整理した。

(1)　協働の場面の設定

教師が意図的・計画的に取り入れた協働の場面を設定すれば、児童は、共有したり共感したりしながら他者の考えに触れ、本時や題材のねらいに迫る学習を行うことができる。

活動内容に応じた人数配分や椅子の配置、活動場所の指定などを行うことで、活動環境を整えることができた。グループ構成を決めるに当たっては、日常の様子や人間関係、担任等の意見等を総合的に判断し、意図的・計画的にグループ構成を考えた。その結果、グループの全員が話合いに参加したり、自分たちの表現を工夫したりするなどの姿が見られ、ねらいに迫る協働の場を生み出すことができた。

(2)　教師の働き掛け

教師がグループ毎の見取りを正確に行い、グループの実態に応じた言葉掛けを行うことで、児童は、自分の意見に自信をもったり、新たな課題を見つけたりし、更に表現を工夫したりよく聴こうとしたりする。このことから、グループ活動中の教師による効果的な言葉掛けは、児童の思考力を高めるために有効であることが再確認できた。

また、教師が、児童の考え等を視覚化したり、児童の思考を助ける教具を適宜活用したりすることで、協働の場面における学習活動が促進される。児童の会話や様子から、視覚化された掲示物を指で示しながら自分の考えを述べたり、教師が全体共有を図った他グループの方法等を模倣しながら活動したりする姿が見られるなど、児童の変容が見られた。

(3)　その他

「四つの視点と具体的方策の整理」（表１）の作成に当たり、教師が各自の課題に向き合い基本に立ち返ることが必要になり、それが授業改善につながる。また、児童の振り返り方法を整理することで、発達段階や学習内容に応じた振り返りを選択し、それらを授業で活用しながら協働を通した学びの連続性を生み出すことができる。

「授業改善のためのチェックシート」（表３）の作成では、教師がこれを活用したことで、児童の思考力、判断力、表現力等を高めるために効果的な協働が生まれていたかを振り返り、次時に生かすことができた。このように、教師が学びの基本に立ち返り、常に自己の授業を振り返り指導の改善に努めることが、児童の思考力、判断力、表現力等の向上につながると考える。

２　課題

児童が、他者との協働を通し、思考力、判断力、表現力等を高めることができるようにするには、段階を追った協働経験を積み重ねることが必要であり、６年間を見通し計画的に進めることが重要である。協働場面における個とグループへの見取りと働き掛けについては、更に効率的かつ効果的で具体的な方策を見いだしていくことが必須である。

平成 30 年度　教育研究員名簿

小学校・音楽

学　校　名	職　名	氏　名
文京区立誠之小学校	主任教諭	山口 美菜子
文京区立駒本小学校	主任教諭	◎我妻　朋恵
葛飾区立鎌倉小学校	主任教諭	米山　美和
江戸川区立臨海小学校	主幹教諭	柴田 あゆみ
小平市立小平第十三小学校	主任教諭	阿部　靖子

◎　世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事　　關口　智子

平成 30 年度

教育研究員研究報告書
小学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録
平 成 30 年 度 第 135 号

平成 31 年３月発行

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所　在　地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０―６８４９
印刷会社　康印刷株式会社

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。